

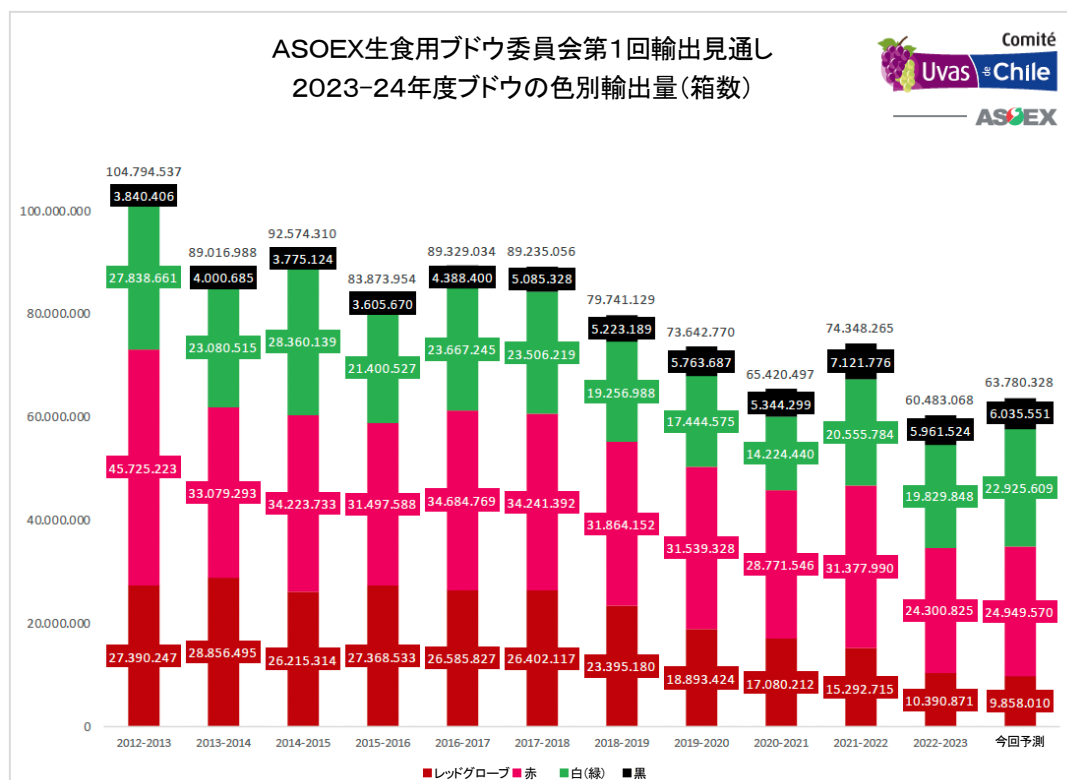
チリ 2023-24年度の生食用ブドウ輸出は5%の増加予測

FreshFruitProтал 2023年10月25日

チリ輸出業者協会(ASOEX)の生食用ブドウ委員会は、輸出は5%増加するとする2023-24年度シーズンの最初の予測を発表した。来シーズンの出荷量は6,378万328箱(18ポンド/箱)と推定される。ペルー産の指数関数的な増加によってこのセクターで失われた地盤を取り戻すため品種の移行を目指していることから、その63%は新品種になる。この予測は、同国の食用ブドウの総出荷量の82%を占める同委員会のメンバー企業から提供された情報に基づいている。

ASOEXのイバン・マランビオ会長は、「この成長は主に新品種の生産量の増加によるもので、新品種は今シーズンの生鮮ブドウの総輸出量の63%、4千万箱近くに達すると予測している」と述べている。レッドグローブ等の従来からの品種は、約2,350万箱と予想される。この目に見える新品種の増加は、今後2年以内に生食用ブドウの総出荷量の70%を新品種にするという同委員会の戦略に沿ったものである。同会長は、「この最初の見通しは、チリの生産者と輸出業者が、輸出先の市場と消費者にとってより魅力的な品種を提供するために行った努力を明確に反映している。これは重要な投資とマネージメントを意味する」と付言した。

米国は、複数の問題により輸出のためのシステムアプローチの承認が遅れているにもかかわらず、依然としてチリ産生食用ブドウの主要な輸出先である。今後の2023-24年度には、米国が輸出量全体の56%を占め、アジアとヨーロッパがそれぞれ19%及び16%のシェアでこれに続くと予測されている。



色に関して、同委員会のコーディネーターであるイグナシオ・カバジェロ氏は、白ブドウが最も増加したと指摘し、「最も成長が著しいのは白ブドウで、前年度より16%増加し、スイートグローブ、オータムクリスプ、アラ15の各品種の増加が際立っている」と述べた。白ブドウ品種の輸出は約2,290万箱と予測され、そのうち74.4%が新品種である。

一方、赤ブドウ品種の出荷量は2,490万箱を超えると予想されており、その74.1%が新品種に該当する。そのうち、ティムコ、アリソン、スイートセレブレーションが、これからのシーズンで目立つことになると予想されている。黒ブドウの輸出量は約600万箱で、76.5%がセールシードレス、スイートフェイス、スイートサファイアなどの新品種である。同氏によると、生食用ブドウの最初の出荷は11月中旬に予定されている。